



地域の国際化の担い手の自主的な活動をサポート

(財)ちば国際コンベンションビューローでは、当協会が実施している先導的施策支援事業の助成事業として、平成一五年度に、民間国際交流・協力団体の管理・運営に関する事務能力の向上と、地域におけるボランティア活動の活性化を目的とした講習会・研修会をそれぞれ開催した。これらの取組みを紹介する。

(財)ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

国際交流・協力に関する団体活動の 運営管理を支援・向上するための講習会

経緯

これまで国際交流事業は行政主導で数多く行われてきたが、これからは、民間団体の自主的な活動が活発に行われることが望まれている。

そのためには、各民間団体が会計や組織運営能力等、団体としての管理運営能力のある程度備え持っていることが必要と考え、当センターでは、平成一五年度から当講習会を実施することとした。

講習会の概要

平成一六年一月二〇日から、毎週火曜日に財団内研修室にて六回シリーズで講習会を実施した。

講師は、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の元総務参与

の中村博氏に依頼し、簿記会計の仕組みや決算書の作成方法等の会計事務面をはじめとして、団体の組織活動の在り方、事業計画の作成方法、法人格の取得方法等の団体の管理運営面について熱気あふれる説明をいただき、参加者は真剣なまなざしで受講していた。

終了後のアンケートでは、「収支状況の報

講習会プログラム

回	日程	概要	詳細
1	1月20日		・会計とはどういうものか(初歩的理解と全般論)
2	1月27日		・単式簿記と複式簿記の何れを採用するのがよいか(比較) ・複式簿記の勘定仕訳の考え方(容易な理解)と実際
3	2月3日	会計事務・ 会計管理	・金銭出納と日次計算、月次計算と月次運営管理、決算業務の具体的進め方、決算報告書の作成 ・事業別計算と共通費の配賦計算、海外出張費の効率的清算方法 ・固定資産の実務的取扱い方、市民活動団体と税務及び社会保険等の取扱い ・収益事業の考え方
4	2月10日	団体の運営・ 管理	・団体の規模と組織運営活動のあり方、活動の計画作り(事業計画、予算についての考え方と実際)
5	2月17日		・団体の規則(定款、就業規則、会計規程、その他) ・法人格の取得とその準備
6	2月24日	総合質疑・ 応答	・講義に対する意見や総合的な質疑、また、各団体における問題点とその改善について

※いずれも14:00~17:00

告と会計が団体活動の管理の上で大変重要であること、会計の目的等再認識することができた」等の感想をいただき、参加団体の今後の活動を期待させる有意義な講習会であった。

課題と展望

今後は、団体活動をますます活性化させるために、会計面以外に各団体が日頃抱えている問題点について焦点を絞り講習会を実施していきたい。

平成一六年度は、特に「資金調達法」や「広報戦略法」について講習会を実施する予定であり、将来的にはこの講習会を通じ、各団体が世界で活躍されることを期待している。



←研修の「コマ」(中央)講師の中村氏

**国際交流コーディネーターボランティア
研修会 ～地域の国際交流活動を担うコ
ーディネーターボランティアにエンパ
ワーメント～**

経緯

当財団には国際交流ボランティアとして約一七〇〇名が登録しているが、財団を通して紹介された国際交流事業に参加する、受動的な活動だけで終わっているボランティアが多い状況である。

協会職員等を対象とした「ボランティアコーディネーター」の研修は他県でも見られるが、当県では地域のボランティアの中核となり、主体的に国際交流活動を推進していくコーディネーターとなるボランティアを育成するための研修を実施することとした。

研修の概要



↑ 研修風景

「わたしが創る住みよいまち」外国人とともに」をテーマに、少人数のグループに分かれ、それぞれが具体的な活動プランを作成することをゴールとするワークショップ形式の研修を実施した。まず、ボランティア精神とは、ボランティア活動とは…を共通理解するために、県

内で国際交流・協力団体を立ち上げ、活動が続いている方々の話を聞いた。

どの方も、社会の中でボランティアが必要とされている場に気付き、やむにやまれない気持ちから、自らが動き、活動を継続してこられた先輩たち。

「やってあげる」「こんなにやっているのに」という気持ちは、外国人の心を傷つけること、想いを強く持てば道は開けること、仕事はいろいろな人のいろいろな力が集まってできること、主役は誰かを忘れないこと、出合いを大切にすることなど、たくさん素晴らしいメッセージが送られた。

第四回目に、参加者が四つのグループに分かれ、自分の居住する地域で、外国人も住みよいまちをつくるために何が必要なの

研修プログラム

回	日程	研修内容	講師
1	12月11日	千葉県在住外国人について 千葉に暮らす外国人 国際協力ボランティアとして グループディスカッション	吉田邦仁(千葉県国際交流センター長) 中島スザナ(千葉県在住外国人) 坂田喜子(世界の子どもと手をつなぐ会代表)
2	1月14日	私を変えたボランティア活動 国際交流あれこれ グループディスカッション	花崎みさを(野の花の家代表) 野原綾子(パティーズ代表)
3	1月30日	地域活動について -実践に向けて- 企画・立案について 活動プラン作成	榎本正文(市立松戸高校教諭) 辻村聖子(浦安親善人形交流の会会長) アドバイザー：辻村聖子・坂田喜子・ 花崎みさを・野原綾子
4	2月20日	活動プラン発表 プランの実現にむけて 「地球市民のつどい」での発表準備	アドバイザー：(同上)
5	3月6日	「地球市民のつどい」第2分科会で発表	

※いずれも10:00～12:00(3月6日のみ10:00～17:00)

か気付いたことを持ち寄り話し合った。それぞれのグループには一、二名の外国人が含まれ、意見を出してもらった。

持ち寄った案を一つにまとめ、具体的な活動プランを立てる作業では、いろんな考え方や意見の方がいることを知り、まとめ難しさを感じ、話し合うことでお互いを知り合う良い機会になったようだ。

それぞれの活動プランは、当財団の主催する国際理解・協力のイベントである「地球市民のつどい」の分科会で発表された。

課題と展望

いつも研修は教養講座に終わってしまいがちなのが課題であった。「いい話だった」で終わらず、「自分もやってみよう」とどれだけボランティアを動かすことができるか。今回は、研修終了後に具体的に参加者に次のような動きが見られた。

活動プランの一つに、「外国人が地域で共生していくために必要な諸ニーズに応えられるサポート組織をつくる」というのがあり、研修が終わって間もなく、それをヒントに別グループの参加者が、自分の居住地域のボランティアに呼びかけて、外国人住民を言葉の面でサポートする組織として「語学ボランティアネットワーク」を立ち上げた。区役所、病院、保健所、学校などで、通訳や翻訳が必要な外国人のサポートをするグループである。活動は始まったばかりだが、地域に密着した活動で、今後が期待できる。